

# インドネシアの“喜”んで“捨”てる精神

## ～多文化社会における宗教実践～

研究代表者 国際政策文化学科 3年山田怜依  
共同研究者 国際政策文化学科 3年謝豆言  
国際政策文化学科 3年赤松義人

### 1.研究目的

本研究の目的は、多宗教国家であるインドネシアで8割以上の人口を占めるイスラームの喜捨がどのように行われているのか、その実態を明らかにすることである。

そのためにインドネシア最大のイスラーム慈善団体である **Dompot Dhuafa** を中心に、地域社会との関わりやコロナ禍での取り組みを調査することで多宗教国家における宗教の在り方を探りたい。

### 2.結論

インドネシアではイスラーム慈善団体が中心となり、喜捨による弱者を救済するための様々なプログラムが実施されていた。プログラムにはムスリムだけでなく非ムスリムでも参加できるよう、配慮がされており、非ムスリムの参加も確認することが出来た。それに加え、Dompot Dhuafa に対し非ムスリムからの寄付や支援が行われており、喜捨の実践による宗教間の軋轢などは見られなかった。

また、上記の調査を通して、宗教が果たす社会的役割を見出すことができた。本来の喜捨とは、唯一神アッラーに認められ天国への切符を手にするを目的に実践されるものである。しかし、インドネシアの宗教実践は人々の連帯感を強め、「貧困問題の解消」「地域社会の活性化」「宗教間の関係維持」といった社会に価値ある効果をもたらしていた。これらのことから筆者らは、「喜んで捨てる」と書いて「喜捨」と呼ばれるこの宗教実践を、「捨てる」ではなく、社会に価値あるものを与える「喜与」として捉えることを提案する。

### 3.活動内容

2023年	5—6月	・文献調査
	7月	・文献調査 ・インドネシアでの現地調査の準備
	8月	・文献調査 ・インドネシアでの現地調査
	9月	・文献調査 ・現地調査の結果の整理・考察 ・プロジェクト奨学金中間報告書の作成

	10—11月	・文献調査 ・リサーチフェスタに向けて準備
	11月末—12月	・リサーチフェスタにて調査報告
2024年	1—2月	・活動報告書の作成・提出



インドネシアでの現地調査の様子(2023年8月撮影)